# 同世代、次世代へ「本音（ホンネ）」を語る

（開催場所）介護付有料老人ホーム「エスペランサ川崎」

共同企画 あいらいふ×かいごの学校

## “施設介護”でわかったこと、かわったこと

**会談参加者**

- 利用者家族／中　島さん（74歳）…同居の妹を介護。1年半前からグループホーム入居中。
- 利用者家族／菅　沼さん（76歳）…脳梗塞で半身不随になった夫が、現在有料老人ホーム入居中。
- 利用者家族／小　林さん（60歳）…居宅サービスを利用して認知症の実母を在宅介護後、老人保健施設で看取り。
- 利用者家族／大　塚さん（54歳）…認知症発症後、実母を9年間同居で介護。現在特別養護老人ホーム入居中。
- 施設関係者／木　村さん……パナナ園グループホーム「ほりうち家」管理者
- 施設関係者／佐渡山さん……（株）フィルケア　取締役介護部長
- 施設関係者／鵜　沢さん……（株）フィルケア　介護付有料老人ホーム「エスペランサ川崎」施設長

在宅介護からの、発想の転換。「施設の力を借りる」ことで、ご本人とご家族の〝暮らし〟にはどのような影響や変化があるのでしょうか。施設を利用するご家族と施設スタッフの方々に〝施設介護〟のホンネを語っていただきました。

### “暮らし”における影響や変化はありましたか？

**中島**　同居で介護している間、認知症の症状を少しでも治したくて、妹を怒ってしまってばかりでした。グループホームに入ってからは、スタッフさんにも優しくしてもらい、他の入居者さんともうまくいっているようです。妹は今70歳ですが、70年間で今が一番しあわせなのではないか、と思っています。

利用者家族 中島さん

**菅沼**　うちの夫婦は「お互いの人生」という雰囲気なんです。だから、家族以外が介護することで主人も精神的に自立してよかったです。主人にも楽しく暮らしてほしいですし、私も仕事や生きがいに時間を費やしたい。各々の充実した生活を成り立たせることを重視した結果、ホームの力を借りる選択をしました。

利用者家族 菅沼さん

**小林**　私は、本当は施設には入れたくなかったんですが、結果として感じ得たのは、「施設介護で最も重要なのは、施設長の考えや方針が、現場スタッフに行き届いているかどうか」ということ。母が2カ所目に入った老健では、施設長が母のためにケースカンファレンスを開いて対応してくれたので、ホッとしました。同じ介護職員でも、レベルがピンからキリまであるんだと、今になってみてわかるようになりました。

利用者家族 小林さん

**佐渡山**　そうですね。例えば認知症の方の場合、ご自身の言葉で感情を訴えられず、行動障害をおこしたりします。そこで、言葉にならない気持ちを汲み取れるように、ご家族やご入居者も交えてのケースカンファレンスに留まらず、介護の質を高めるための研修と指導が求められます。技術だけのケアではなく、スタッフの〝ハートのあるケア〟が、施設介護でのしあわせをもたらすのではないでしょうか。

施設関係者 佐渡山さん

**小林**　〝ハート〟とは、「記憶が損なわれても心は生きている」ことを理解する心でしょうね。

**木村**　「ほりうち家」では、職員が「今日一日」を楽しめたかどうかも大事にしているんです。そのために、利用者さんやご家族、地域の方々とのコミュニケーションを深める。結果として業務に向かう姿勢を職員が楽しめて、よいケアにつながっていくんだと思います。だから、私もできるだけ現場にいます。

施設関係者 木村さん

**鵜沢**　ご入居者でも職員でも、時には異なる意見があって当然だと思うんです。人と人が関わり合うことですからね。そうした日々のふれあいの中から、ひとつの〝町内会〟が活性化していく。「エスペランサ川崎」では、そんな社会感のある施設づくりをこころがけています。ご入居者、職員、双方の「日々の充実」が私たちの掲げている目標です。

施設関係者 鵜沢さん

**大塚**　施設に入居して以来、母にも笑顔が戻り、私自身も自分の人生を取り戻せました。それまでは安眠できなかったり、疲れた時にはつい母を傷つけるようなことを言ってしまったりしていましたから。だから、ただ入居させて終わりではなく、入居してから家族として「施設介護」に働きかける意識が大事だと思います。私の場合は、施設でボランティアもしているんですよ。職員の方とも親しくなれるし、施設の中のことがいろいろと見えてくるんです。

利用者家族 大塚さん

### 入居先を選ぶポイントやアドバイスはありますか？

**小林**　入居先を選ぶ際、自分の目で確かめることはもちろんのこと、書類に載っていない情報が大事です。入居している人の話、入居していた人のご家族の話、それから施設長や介護リーダーの教育訓練の経歴も知った上で入居を決められれば、後悔することは少ないと思います。

**菅沼**　家族として、どうしても家族側の視点だけになってしまいがちですが、私は、大切な大のお世話をしてくれているスタッフ側を応援する考えも持っています。とにかく、介護の大変さは、家族がよくわかっているわけですからね。「施設なんかに入れて」という周囲ごえがしな声もありますけど、経済的に夫婦ともに施設に入るなんてできませんので（笑）、まず私が元気でいることを目標にしているんです。そして、日々の楽しい出来事を夫に報告しにいくと、夫も喜んでくれますから。

日々変化している高齢社会において、在宅介護にしても施設介護にしても、決して現状の介護、が完成形ではありません。親のこと、いずれは自分のこと、自分たちの介護、自分たちの人生を支えていくにあたり、家族でないとできないこと、施設だからこそできること、行政にしてほしいことが、まだまだありそうです。

あいらいふは、しあわせなお暮らしを第一に考えます。





企画主催
介護する人・される人の生活情報誌
かいごの学校
定期購読に関するお問い合わせはこちら
☎03-3256-2862



取材協力
介護付有料老人ホーム
エスペランサ川崎
〒210-0002
神奈川県川崎市川崎区堀町2-1
お問い合わせ先はこちら
0120-54-6366
あいらいふ2007年6・7月号P8に掲載されました。